

三次市教育委員会会議録

1 日 時 令和6年2月15日(木)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 3時00分

2 会 場 三次市役所本館 3階会議室

3 出席委員 教 育 長 迫 田 隆 範

委 員 小 根 森 直 子

委 員 深 水 顕 真

委 員 井 岡 直 美

委 員 藤 井 皇 治 郎

4 出席職員 教 育 次 長 宮 脇 裕 子

学校教育課長 中 村 徳 子

教育委員会事務局付課長 小 原 謙 二

教育委員会事務局付課長 藤 本 裕 佳 里

文化と学びの課長 山 西 正 晃

教育総務係長 阿 部 晶 子

文化と学びの課主任 畝 岡 あ き

5 議事日程

(1)協議1 (仮称)三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画の素案について(公開)

文化と学びの課長 ただいまから教育委員会会議を開催する。教育長の報告をお願いします。

迫田教育長 前回の教育委員会会議以降の状況等について、2点報告する。

1点目は、学校、児童生徒、教職員の活躍等についてである。

令和5年度広島県教育奨励賞個人の部において神杉小学校の細川京子教諭、また団体の部において布野中学校が受賞した。

細川教諭は令和３年度から小学校英語専科指導担当教員として中学校区の他の３小学校を兼務し、外国語教育や授業改善に取り組んだことが高く評価されたものである。

また、布野中学校は令和３年度から探究的な学習の充実に取り組み、小中９年間を見とおした系統的な生活科・総合的な学習の時間を中心に、地域や地元企業と連携して地域の特産物を使った商品開発や地域間成果に取り組むなどしたことが高く評価されたものである。

２点目は美術館関係についてである。

三良坂平和美術館では「みらさかコレクション ザ・カキテ②」と題した所蔵作品展を３月２日から３月２４日まで、あーとあい・きさでは「吉舎町内児童生徒作品展」を２月２５日まで、はらみちを美術館では「きみたフォトクラブ写真展」を３月３０日まで、それぞれ開催している。ぜひご鑑賞いただきたい。

文化と学びの課長 本日の会議は全員出席のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１４条第３項の規定により本教育委員会会議が成立していることを確認する。それでは、以降の進行を教育長にお願いします。

迫田教育長 これから議事に移る。協議１については公開したいと考える。承諾いただけるか。

委員一同 一異議なし

迫田教育長 それでは、協議１について、事務局の説明を求める。

文化と学びの課長 議案第４８号（仮称）三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画の素案について説明する。

前回の教育委員会会議からの修正箇所を中心に説明する。

—資料に沿って説明—

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

深水委員 素案ということで、今後も修正を重ねていくということで良いか。

迫田教育長 その通りである。パブリックコメントも今からである。最終的にまた教育委員会会議を開催し、総合教育会議でまた確認、確定をしていくという流れになるので、今まだ途中段階である。

深水委員 ８ページの施策の方向性（１）～（２）の主語がよくわからない。児童な

のか、市なのか。特に4の情報発信については誰がするのか。発信とアクセスは主語が別だと思うがいかがか。

また、10ページの多様性については具体的なことは記載しないということだが、この中にジェンダーや宗教的な多様性は含まれているのか。7ページに制服のジェンダーレス化については、前回委員3人の意見も出たので、反映させていただきたいと思う。

教育次長 情報発信については、その前段のところに、市民一人ひとりが持続可能な社会の創り手となることをめざして、基本となる方向性を定めたということで、この5項目の主語は子どもを含めて市民一人ひとりという文脈で作っている。ご指摘の通り、すべて対象を記載すればわかりやすいが、全部書けば非常に文章が長くなってわかりにくいということでこのような表記としている。

多様性のところは、総合計画等にもあり、ご指摘のジェンダー等々の配慮は必要であり、それも含めて総括的な多様性という言葉を使っている。

まだ「ジェンダー」と書くとまたそれはそれで、やはり日本語ではないという指摘もあり、多様性という言葉としている。

小根森委員 私もこの8ページの施策の方向性のところは主語がわからないと思う。施策の方向性については、(1)(2)(3)は主語が市民、(4)(5)は主語が市であると考えがいかがか。

もう一度確認だが、この教育振興基本計画も教育大綱もターゲットは、学校教育を受けている子どもたちはもちろん入るが、教育という範疇は人づくりなので、まさにその市民一人ひとりという捉えでいいか。

迫田教育長 施策の方向性は、もう少し整理していく。

ターゲットは、その通りである。

井岡委員 施策の方向性のこの5点は、簡単に言えば同じレベルになっていないということではないか。よくまとめて書いてあるが、ご指摘を聞いていると確かにそうだなと感じた。

深水委員 4つの項目の語尾が「めざします」となっている。

施策の方向性として教育委員会はこのことをめざすというのならわかりやすいが、ここでめざすということは、市民を代表して宣言ができる

のかということがある。施策の方向性なので、教育委員、市なり教育委員会はこういった施策をめざすならわかる。

主体の部分で少しずれているのではないか。

教 育 次 長 この計画全体のめざしていきたいところということで、子どもを含めて市民一人ひとりがこのような状態であることをめざしていく。ご指摘のように2つの要素が一緒になっているというところはあるが、情報発信とかDXとか、自立、共創、ウェルビーイングをそれぞれ大事にしながら、この施策をめざすべき方向に持っていきたいという意味である。方向性という言葉が適当でないということであれば検討するが、大事にしたい基本的な考えで、方向性としている。

迫田教育長 補足になるが、今回大綱と教育振興基本計画を一体的に策定するということからスタートしている。現在の大綱と教育振興基本計画は、理念や基本的な方向性など似通った書きぶりとなっており、ダブルスタンダードというか、内容をよく見れば1つの方向性であるが、ビジョンが2つあるということになっている。市長部局と教育委員会部局がそれぞれ作るのでもそういうことになるが、一体的な取り組みにつなげるためにも今回このような作り方にしようと考えている。教育大綱は、あくまでも市長部局の基本的な方向性であるから、総合計画の人づくりのところと同様の書きぶりになっている。

本来は、ご指摘の通り「自立」とか「共創」「ウェルビーイング」は基本方針のようなものであるが、この計画になかでは、教育大綱部分に基本理念と基本方針を整理して、基本方針の内容は、総合計画の人づくりに関わる具体的な施策の部分としている。教育振興基本計画部分は教育委員会所管で、施策の方向性として書き分けている。主語という問題はあるかもしれないが、いずれにしても対象は子どもを含めて市民一人ひとりであって、その人一人ひとりが、自分事として自分の人生とか社会の幸せとか、地域の発展や持続可能性というものを追求していくような市民であって欲しいという願いを込めている。

この5つはどうしても同じところで並列に記載するのはおかしいということであれば、根本的に考え直さないといけなくなるが、書きぶりを検討

するということではいかがか。

深 水 委 員 この5つが併記されることに異存はない。気になっているのは主語の問題。市が主語となるよう、文章の表現を修正したらどうか。逆に言えばそれは文末の表記で全く印象変わると思う。めざすのは誰がめざすのかをはっきりさせることで、書いてある内容は何の問題もないと思う。あくまでも施策の方向性だと言われれば、主語は市民でなく教育委員会だと思う。

教 育 次 長 「施策の方向性」という書き方に違和感があるということだと思う。この5つの視点を大事にしながら次の施策をやっていこうという思いであることから、「施策の方向性」を例えば「施策の視点」とか書き方を変えるということもできる。やはり「自立」「共創」とか「ウェルビーイング」等をめざすことを視点として持ってこの施策をやっていこうという、市は市として、子どもを含めて市民一人ひとりがそれぞれの中で、「自立」等をめざしていきたいという思いというようなところも思っている。

深 水 委 員 施策の方は残して、方向性をかえようとの意見だが、私はむしろ施策を消して、めざすべき方向性ぐらいの方がいいのかなと思うが、施策を残したいという意図があるのか。

教 育 次 長 5つのそれぞれ書いてあるものを通して見たところの視点という意味であり、その言葉にこだわっているというわけではなく、これからやっていこうとする具体的な基本施策を含めた、具体的施策を通す考え方というか、そのような思いである。特に「施策」にこだわるわけではなく、ご提案の「めざすべき方向性」でも同じ意味と思う。

小根森委員 その右の9ページの体系図では、「スローガン」と「方向性」になっているので、キーワードとして私は「方向性」だけでもいいと思う。

迫田教育長 最終的に、一人ひとりの市民や子どもに戻ったときには、やはり社会的な自立はどうしても必要なわけで、みんなで何とか助け合ってやりましょうというようなことだけでは解決しない。そういう意味でも、取り組むべき方向性をきちんと見定め一番基盤になるところは、色々な見方とターゲットを考えたときには、この5つに収斂するのではないかというのが結論である。それは取り組むべき方向性の基盤となるべきものなのであり、確かに「スローガン」から考えると「方向性」ということでもいいと思う。

藤井議員はどう思われるか。

藤井委員 皆様のご意見聞きながら、確かに誰に向けて言っているのかがわかりにくいというのが率直な意見である。

深水委員 確かに文章のところにはリード文がついており、「一体的な取り組みを進めるため、教育施策の基盤となる方向性を決めました」とあるので、タイトルは「方向性」ということでも別に違和感はないと思うがいかかが。上を「方向性」のみとしたら、先ほど説明された思いの部分をもう少し書いて「教育施策の基盤」の部分は削った方がいいと思う。

教育次長 1つ1つの言葉の中に、行政側と市民の皆さん、子どもを含めて一人ひとりがやっていかななくてはいけないことが混在しており、それをうまく書き表せてないのでいろいろなご指摘があるのだと思う。前段の部分にそれを書き加えるように考えている。

この教育振興基本計画は、このような5つの方向性をもとに、以降の具体的な施策を組み立てているということがわかっていただきたい。

それはこの5つの視点が大事だと思っているということであるが、その1個ずつが市だけがやるのではなく、市民の皆さんとともにやらせていただかないともう今は難しい時代になっており、そのことが共創であり、特にウェルビーイングなどは、まさしく一人ひとりが生きがいを感じられるように、私達もするけれども皆さんもしていただいて、双方が一緒になってそういう学校生活や社会生活、社会の安全を作っていこうという気持ちである。

小根森委員 市民の人とともにやっていくのなら、ますますこの「施策」という言葉より、「取組」なのではないかと思う。

「施策」というと私たち市民は、行政が中心になって主役になってやっていくような感じを受ける。

迫田教育長 2の「施策の方向性」の「施策」をとって「方向性」とし、リード文の修正をかけるということでどうか。

深水委員 もう1つ、4番の情報発信についても、もう少しはっきりしていただきたい。「誰もが」途中にあるのが気になっており、これは冒頭に持ってきてもいいのではないか。市民の取組と言われるのなら、そのほうがよいので

はないか。情報発信が行政の施策のこととは理解できない。

今の市民の取組ということにおいては、情報教育等を通して児童生徒にも発信してもらいたいという意図も感じられる。

教 育 次 長 今、発信力向上プロジェクトといって、子どもが発信力を高めるため YouTube を作るような事業もやっており、ここは広い意味を持たせている。

深 水 委 員 「必要な情報にアクセスしやすくなることをめざします」とあるが、アクセスというのは、ちょっとおかしいのではないか。並列で、誰もが広くわかりやすく情報発信をし、さらには必要な情報にアクセスしやすいことをめざす方がいいのではないか。「誰もが」が今の場所だと行政の教育委員会のホームページが充実する話のように感じる。

小根森委員 短い文章の中で、短い文章がゆえに幅広にとらえる部分もあったり、わかりにくくなったりするのは確かにある。そういう点では、確かにここと言えばやはり「誰もが」というのをあえてつけるということの方がいいのかもしれない。

迫田教育長 確認すると、2 番は「方向性」とし、リード文は整理する。それから情報発信については「誰もが広くわかりやすい情報発信をし、必要な情報にアクセスしやすくなることをめざします。」というような方向で修正を検討することによろしいか。

委 員 一 同 一了承一

迫田教育長 その他、いかがか。

小根森委員 10 ページ 4 行目のところは、先ほど多様性について、ジェンダー等の話が出ていたが、ここは学力の育成が主の項目だと思う。「多様性を認める」ということは、いろんな考えがあるということで、ジェンダーを入れるのなら、違う項目にしたほうがいいのではないか。

迫田教育長 深水委員、あらためてご意見を聞かせてほしい。ジェンダーという言葉を入れるということが必要だというご意見か。それとも、そのことも含めた多様性を認め合うというような考えをどこかへ入れるってということなのか、聞かせてほしい。

深 水 委 員 はっきりはジェンダーという言葉が入って欲しいと思う。制服のジェンダーフリー化等、より具体例を記載してほしい。ベジタリアン等や宗教的な

ことに係る給食対応等も今後どのように進めるのか。

私もいろいろな教育大綱や教育振興基本計画を見てみたが、ジェンダーについて述べている項目が入っているところはまずなかったと思う。

その意味でもすごく斬新なことだと思う。率先して取り組んでいくという姿勢を見せることができる。

迫田教育長 例えば総合計画の中で表現をしているところで整理をして、本市ではパートナーシップ宣誓制度も実際に設けている。制服についても具体的に教育委員会からも、積極的に校則を見直すように言っている。さらにはその中で子どもの意見とか、参画を、保護者も含めて促すようにしている。具体的なものは記載していないが、多様な考え方や生き方について認め合う視点を入れる。さらには、いわゆる希望進路の実現に繋がるっていうふうなものにしていくっていう見直しをしてほしいと今進めている。

中学校では、かなりの学校が制服にスラックスを取り入れる等男女差をなくしている。違う考え方を認めていくということが大事だということを学びという点からも、多様性は1のところでもいいと思う。

ジェンダーについては、例えば総合計画の部分の書きぶりをどこかに加える形でいれていくというのではどうか。

深 水 委 員 いいと思う。具体的に言えば、2のところに今の「性別を意識しない」という1行が入ればいいと思う。もしくはその下の具体的施策のところ、不登校の後でもいいかもしれないが、2段落目のあと、もしくは3段落目の後にいれたらどうか。

迫田教育長 その他のご意見はないか。

井 岡 委 員 入れるとすれば確かに、4行目と5行目の間である。不登校の前だと、突然、性別を意識しないと入るのは唐突感がある。

藤 井 委 員 (2)の見出しの「多様な」とところを、「多様性を認める居場所や学びの場の創出」としたらいかがか。そうすると全体が多様性を認めてくれるのだというのが伝わるのではないかと思う。

迫田教育長 (2)は基本的には、子どもに関する部分である。多文化共生は総合計画の中の考え方でいうと、子どもだけではなく大人、市民全員に多様な多様性が認められるということである。

(7) 生涯の学びを支える環境の充実というところも考えられる。いろいろな意見はあると思うが、学び続けることができる環境というのは教育委員会でも今の内容で十分かと言えば、十分ではないところもあるので、そこに入れることも考えられる。

深 水 委 員 今、皆さんの意見を聞いて、教育大綱のところに入ってもよければ、7 ページの基本方針3 多文化共生のところへ1 行加えれば、一番いいのではないかと思う。

教 育 次 長 この部分は、総合計画の柱とそろっており、ここに加えると総合計画との整合が難しくなる。

迫田教育長 基本方針3「一人ひとりを尊重し合う共生社会の推進」は、まさにこれまで委員が言われてきた内容が含まれている。

整理をさせてもらおうと、修正というご意見は承るが、具体的な文言を計画の中へどのように表現して加えるかということについては、事務局の方で検討させていただくということでもいいか。

委 員 一 同 一了承一

迫田教育長 その他はいかがか。

深 水 委 員 今日見せていただいたアンケートについての意見だが、望ましいクラス数について、クロスで分析していただきたい。現在1 クラスの子どもが複数を望んでいるのか、複数クラスの子が、1 クラスを希望しているのかというような実態と希望とのクロスを是非お願いしたい。

文化と学びの課長 アンケートについては、そのような視点も持ちながら、引き続き分析を重ねていきたいと考えている。

深 水 委 員 15 ページの魅力ある歴史、伝統文化のところの具体的施策に「わかりやすい歴史文化財の情報発信」とあるが、ずっと入ってこない。親しみやすいとか、魅力的なとかならわかるが、どういう意味でこのわかりやすいを使っているのか。

文化と学びの課長 ご指摘のこともあるが、この意図は、文化財等は研究されてる方や造詣の深い方にとっては興味関心があるが、親しまれてない方からすると理解してもらえないというところがあるように常々感じているところがある。そこで、わかりやすく伝えて、理解してもらいやすくしたいという思いで

ある。市民のアンケートでは文化財について思い浮かぶものを書いてくださいとしていたが、中には地域で指定されている文化財として挙がっているものもあったが、ちょっと文化財という範疇になるかなというようなものも多くあげられていた。

地域の誇りに繋がるその歴史であるとか、指定されている文化財のようなものについて、もう少し理解していただきやすくなるといいなと思いで記載したものである。

迫田教育長 これも検討することでもいいか。

委員一同 一了承一

井岡委員 14 ページの具体的な施策の中の「良質な芸術鑑賞」の「良質」に引っかかる。何の基準をもって良質とするのか、今これだけ多様性多様性と言われている中で良質とか普通のとかを判断するのは個人である。個人の判断であり、好みもある。「良質な芸術」という気持ちはわかるが、もう少し他の言葉がいいのではないか。よりよいすぐれたものが一番価値の高いものであるが、その価値も人によって異なる。

迫田教育長 この件も研究させてほしい。

その他なければ、協議1についてはよろしいか。

委員一同 一了承一

迫田教育長 これをもって本日の会議を終了する。